

CONTENTS

〈はじめに〉

歴史的背景	01
使命と目指す大学の姿	02
総長挨拶	03
歴代総長	04
東北大学公式ロゴマーク	04
100周年記念関連事業	05
沿革図	07
ノーベル賞・文化勲章等受賞者	09
学内表彰	12

〈組織〉

運営組織	15
機構図	16
役職員	17
総長選考会議	20
役員会	20
経営協議会	20
教育研究評議会	20
役職員数	21
学部	22
大学院	23
附置研究所	25
学内共同教育研究施設等	25
特定事業組織	26
先進医工学研究機構	26
附属図書館	26
病院	27

〈学生〉

学生数	29
入学状況	30
学部卒業生数	32
学位授与者数	32
卒業後の状況	33

〈財務〉

平成17年度決算	35
研究費等受入れ状況	36
土地・建物	37

〈特色ある研究・教育・社会貢献活動〉

COE等	39
教育	42
寄附講座・寄附研究部門	43
産学連携ポリシー	43
産学連携	44
社会との連携協力	44

〈国際交流〉

学術交流協定締結等	47
研究者等受入状況	51
海外拠点	52
外国人留学生数	53
国際シンポジウム等開催状況	55
国際交流戦略の基本指針	55

〈キャンパス〉

施設所在地一覧	57
建物配置図	59

■ 歴史的背景(Historical Background)

東北大学は、1907年(明治40年)に、東京帝国大学、京都帝国大学に続く3番目の帝国大学として創立。設立当初から、高等専門学校、高等師範学校の卒業生にも門戸を開き、さらに1913年(大正2年)には、当時の政府からの圧力にも屈せず、日本の国立大学として初めて、3名の女子の入学を許可し、「門戸開放」が本学の不動の理念であることを世に示した。

東北帝国大学は、創立に当たって、世界の学界でトレーニングを積んだ若き俊秀が教授として集まったこともあって、研究者が独創的な研究成果を次々と生み出しながら、それを学生に対する教育にも生かすという「研究第一主義」の精神が確立された。さらに、東北大学は、戦前からいち早く大学発のベンチャー企業を設立して地域産業の育成を図ったり、日常生活に最も密着した法律である家族法の研究の日本の中心になるなど、世界最先端の研究成果を社会や人々の日常生活に役立てる「実学尊重」の伝統も育んできた。

このような精神は、第二次世界大戦、戦後の成長期を経て、グローバル化が進行する現代にも生き生きと息づいている。東北大学は、2007年に創立100周年を迎えるが、次の100年には、世界各地から集まった多くの学生研究者も加わって、東北大学の伝統が継承され、ますます発展していくことになるだろう。